

研究の名称：近視性脈絡膜新生血管に対する抗 VEGF 療法の治療効果および網膜色素上皮萎縮の発生頻度の検討

研究の目的：近視性脈絡膜新生血管に対する治療として抗 VEGF 薬の硝子体注射が一般的ですが、抗 VEGF 薬に主にルセンティスとアイリーアの 2 種類があります。これらの薬剤は、主な作用は同一ですが、作用の強さなどは異なることが知られています。これまでにルセンティス硝子体注入およびアイリーア硝子体注入の治療を行った症例の視力予後、治療回数、および網膜色素上皮萎縮の発生などを後ろ向きに解析し、治療効果の違いを検討します。

研究期間：承認日より 1 年間です。

倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長の許可を受けています。

研究機関の名称・研究責任者の氏名

主任研究者 京都大学眼科学 大音壮太郎

副主任研究者 京都大学医学部附属病院臨床研究総合センター 畑匡佑

情報の利用目的・利用方法

近視性脈絡膜新生血管に対して、ルセンティスもしくはアイリーアの抗 VEGF 薬の硝子体注射を受けた方を対象に、以下のカルテ情報を利用します。

- 1) 年齢・性別
- 2) 近視性脈絡膜新生血管の病巣径
- 3) 初診時・治療開始時・治療開始 1 年後・治療開始 2 年後・経過観察のための受診時・最終検査時の視力
- 4) 初診時・治療開始時・治療開始 1 年後・治療開始 2 年後・経過観察のための受診時・最終検査時の光干渉断層計画像から測定した中心窩網膜厚、脈絡膜厚
- 5) 治療回数
- 6) 初診時・治療開始時・治療開始 1 年後・治療開始 2 年後の、網膜色素上皮萎縮の頻度、萎縮面積、萎縮拡大率

7) 治療開始 1 年後・治療開始 2 年後の、近視性脈絡膜新生血管の再発頻度、再発までの期間、治療回数

8) 治療薬剤間における、治療開始 1 年後・治療開始 2 年後の、網膜色素上皮萎縮の頻度、萎縮面積、萎縮拡大率の差

研究対象者又はその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される情報の利用を停止するが可能です。

情報の保管及び廃棄の方法

1) 試料・情報等の保管期間

当該論文等の発表後 10 年です。

2) 試料・情報等の保管方法

個人情報、データはパスワードでロックされた PC で保管します。

3) 保管期間または研究終了後に廃棄する場合はその処理の方法

匿名化キーのデータを消去します。

利用する者の範囲

本研究で得られる全ての情報を利用できる者は、京都大学眼科に所属する研究担当者に限る。

情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

主任研究者：京都大学眼科 講師 大音壮太郎

副主任研究者：京都大学附属病院 臨床研究総合センター・眼科 助教 畑匡侑

相談等の連絡先

京都大学眼科研究室(畑匡侑担当) tel: 075-751-3250

京都大学医学部附属病院 相談支援センター

(Tel)075-751-4748 (E-mail) ctsodan@kuhp.kyoto-u.ac.jp